

## 善光寺講座 「論語からのお話」

～参加者からのお便り～

▽口野 健太郎さん

この度は『成寿』への投稿の機会を頂戴し、真に光栄に存じます。東郷先生の善光寺講座「論語からのお話」には平成二十五年より夫婦で参加しております。私は会社で台湾・韓国関係の仕事をしており、以下の理由から論語の勉強を始めました。

・仕事には法務、経理だけではなく、倫理的な判断基準が必要です。

・論語を学ぶことで台湾人、韓国人の考えの理解に繋げようと思ったこと。

また、台湾人の妻は、子供の頃から馴染のあ

った漢字に出逢い、『論語』を通じて、一層日本語や日本社会への理解を深めています。

講座の一年目は日々、「論語」から学んだ啓発の心得で仕事に取り組み、目の前の問題について考え抜き、判断し実行する習慣が身に付きました。

しかし、仕事の多忙さから、周りが見えなくなるがあったことを省みて、二年目は、限りなく「人の為に謀りて忠ならざるか」と、帰宅する電車の中で毎日自問自答しております。これが「学習」です。

東郷先生は論語の解釈のみならず、日々何をすればよいのかを平易な言葉で説明して下さり、その実践を重ねることで、生活や仕事により変化があらわれてきます。

「人の為に謀りて……」という難解に聞こえますが、他人を思い遣る気持ちがあったか、

相手に笑顔で挨拶ができていくかと、いうことなのです。簡単だけど難しい。意識するのとは別のものでは結果が違ってきます。日々刻々が「論語」の実践です。

忙しくても必ず挨拶をすると決めれば、自ずと同僚との仕事の進み具合、体調、精神状態にも関心が向かうようになってきました。論語は、会社で中間管理職になった私に、上と下との板挟みから抜け出させて、良い変化をもたらしてくれたと実感しております。

二年間、論語の会に参加して改めて思うのは、人間は忘れる生き物だということなのです。

しかし、月に一回論語の会に参加して、忘れては思い出しを繰り返すことで、徐々にではありますが、私のような者にも進歩があったのではないかと感じております。

東郷先生は素読そどくと暗誦、浮かんだことはとに

かく実行してみるのが大事とくり返されま  
す。また、ユーモア溢れるお話は面白く、参加  
者の皆様からも毎回刺激を頂いております。今  
後とも学習を続けて参りますので、宜しくお願  
い申し上げます。

#### ▽高杉 富美子さん

善光寺様とは平成十八年に仏縁をいただきま  
して、自分が変わってゆく大切な切っ掛けとな  
りました。それまで「生きてきた」と思ってい  
ましたが、漸く「生かさせていただいている」こ  
とに気づき、嬉しく思っています。正に「一期  
一会」でございました。お彼岸法会、お盆、新  
年祈祷会と参加させて頂き、尊いご法話をお聞  
きしてゆくうちに、『般若心経』の尊さや、お  
供えの意味、ご先祖様と亡き人の追善供養のこ  
と、父母へ感謝すること、あらゆる精霊に感謝

すること……などを心新たに知りました。

平成十九年から写経会にも参加させて頂き、有り難い事です。さらに信仰心、仏心を育むことができたと思う日々でございます。ご法話で優しくお導き下さる方丈様、各寺の住職様、先生方に深謝の気持ちでいっぱいです。

そんな折り柄、東郷先生の講座が始まるお知らせに飛びつき、難しい論語なのに、身近な問題を次々解答し方向をお示しくださって、感動しました。嬉しかったです。

私は何も知りません。それでも、東郷先生のお話を聞くうちに、少しずつ分かってきて、周囲が明るく開け、明日起きるのが楽しみにになりました。『論語』は人としてどうあるべきか大切な事ばかりです。人生は悩み多く否定的な思いを持つこともあります。失敗もあります。

東郷先生は忠恕と仁の心を明解に話され、笑いながら聞いて納得できたのです。そして反省

を繰り返す事をよく話されます。己を尽くすは忠という。人の喜ぶ事に心を遣うは恕。誠心誠意相手を思うは忠恕だと。「人の話は自分の概念や観念を押しつけず聞く。相手の立場に立って考えることができたか」と。自分を見つめる大切さ。

「学びて時に之を習う」とかく学んだことは実行する。日常生活に活かさなければと思つています。先生は熱意を持って話されます。

学習と朋友が大切であることは私でも理解できようになりました。

先日、娘から「お母さんは聞く耳を持つてきたね」と言われました。一歩前進したのかも、と嬉しかったです。

東郷先生の情熱に少しでも近付けるように、経験を通し広い視野で、残りの人生、論語の教え、ご法話、写経を心の支えとして参ります。

私に老いる暇はありません。善光寺様、東郷先

生、今後ともご指導下さいますようお願いいたします。

合掌

▽吉羽ふじ子さん

「論語」に学ぶ

善光寺の方丈さんからご依頼いただき、筆をとらせていただきました。

東郷先生の熱弁とユーモアのあるお話にどんどんと論語の世界へと引き込まれてしまいました。素晴らしい技術や科学が発達した文明社会の現在でも、二千五百年も前の思想家孔子の「精神と心」はいまにも息づいていて、真に迫り、様々な事柄を説明していくのです。

豊かに生きる人生の知恵を与えてくれるのです。一例として自分ですとまとめました。

学習とは、学んだことを機会あるごとに実行する。

あたかも、ひなが羽の白い間にバタバタと巣立ちの練習を重ね、やがて大空に飛んでゆくが如く。

← くり返し、習熟体得し人間として成長する。

← そんな自分の存在があれば友もでき、私もよろこびに遇うことができる。

← それこそ「学習」の効果だと教えていただきました。

子曰く

学びて時にこれを習う

またよろこばしからずや

朋、遠方より来たる有り

また樂しからずや

人しらずしていきどおらず

また君子ならずや

論語では、このように美しい詩で述べて下さっています。

最後の一行は相手が自分を認めてくれなかったり、理解してくれなくても相手を怨んだり、責めず、憎まないのが立派な人であると言っています。どうすればこんな境地に至れるのかわかりません。しかし、教えられる方向に自分を進めたいのです。私には目標があります。

目標に向かって一生懸命やりとげ、幾つもの山を乗り越え、快感と自信につないで参ります。きつと、自分を強くすると何か先が見えてきます。

「恕の心」とは、真心を持って相手の立場に立ち、やさしさと思いやりで尽くし、また自分がしてもらいたくない事は慎むということです。

孔子の仁、釈迦の慈悲、キリストの愛、ソクラテスの義、すべて神、聖人、仏、哲人様は共通した「恕心」の持ち方を教えて下さっているのも発見でした。心がわかれば難しくないといいことも大発見です。それぞれ畏敬を感じながら従ってゆきたいと願っています。

聖徳太子の十七条の憲法「和を以て貴しとなす」の名言も論語からだを知って目からウロコです。和だけではうまくいかない、礼（秩序）が加わって節度が保たれる。江戸時代、幕府を支えた教育、学問などが我が国に深く根付いていったということを論語を学んで知ることができました。

書きたいことは山ほどありますが、いろいろ心がけ生活するように努力していきたいと念じています。

そして一歩前に出て挨拶、返事、あと始末を尽くし、自分を力強くして参ります。

さあ、皆様、「論語」の世界に誘われて学び、磨き、自分を見つめ直してみましよう。先生のお話は格別です。とにかくためになります。笑いこけ、面白いです。楽しいです。時間はあつという間に飛んでしまいます。先生は、「過去と他人は変えられない。しかし、未来と自分を変えられる」と言われます。私もわかりかけてきました。

《今後の予定》平成二十七年

▽一月十二日(月)	▽七月五日(日)
▽二月八日(日)	▽八月はお休み
▽三月八日(日)	▽九月十三日(日)
▽四月十二日(日)	▽十月十二日(月)
▽五月十日(日)	▽十一月八日(日)
▽六月十四日(日)	▽十二月十三日(日)

毎月一回、三時から四時(一時間)





# 善光寺霊園ニユース

## 横浜やすらぎの郷霊園

### ◇やすらぎの塔

「願はくははなの下にて春死なむ

そのきさらぎの望月のころ」

(西行)

霊園管理事務所から墓域に登る河津桜の間に「やすらぎの塔」を建立いたしました。

「やすらぎの塔」はお遺骨を大白然に還す合祀塔です。

昨今はお墓の形態も多様化してきております。マスコミでもお墓について取り上げられることが多くなりました。樹木葬や海洋散骨、宇宙に飛ばす……宇宙葬もあるようです。善光寺で直接管理をしている、横浜やすらぎの郷霊園も十五年前の開園当初より、多くの相談を承って参りました。中でも墓地継承について悩まれる方が多く、その対応として永代供養墓「やすらぎの碑」を建立致しました。

永代供養墓「やすらぎの碑」では、地下に納骨室を設け骨壺のままお遺骨をご安置しております。



骨壺でのご安置期間の違いで、合葬がっさうと合祀ごうしの二つのタイプがあり、その期間は合葬で三十二年間（三十三回忌まで）。合祀で十年間となります。骨壺のままご安置する期間を経過した方々を土にお戻し、永遠のやすらぎの場として、



その御霊をお祀り出来るよう誓願し建立されました施設が、「やすらぎの塔」です。

塔の下には深く、広いカロートがあり、長期間にわたって多くの御霊をご供養させて頂きます。

永代供養墓「やすらぎの碑」からの合祀だけでなく、一般の墓地からの合祀も承ります。

また、善光寺檀信徒の皆さまで、墓地についてお悩みの方、お遺骨を自然に還したいと思っている方や他墓地からの改葬を希望されている方、管理料不要の善光寺永代供養墓・やすらぎの碑・やすらぎの塔をご検討下さい。詳しくは管理事務所までお問合せ下さい。

241-0802

横浜市旭区上川井町1749-1

横浜やすらぎの郷霊園管理事務所

TEL 〇四五―九二四―〇二一〇

◇善光寺永代供養墓◇

やすらぎの碑・やすらぎの塔

がっせう

1、合祀 ※やすらぎの碑に埋葬。

単独型 永代供養料 五〇万円

夫婦型 永代供養料 八〇万円

三十二年間骨壺にて安置し、以降やすらぎの塔に合祀

2、合祀 ※やすらぎの碑に埋葬。

一 霊 永代供養料 三〇万円

十年間骨壺にて安置し、以降やすらぎの塔に合祀

3、合祀2 ※やすらぎの塔に直接合祀。

一 霊 永代供養料 二〇万円

合同合祀供養祭にて合祀

○ご希望の方には石版に一名づつ墓誌を彫刻致します。

(有料・三万円)

○他霊園からの改装など複数名の契約(三霊以上)については金額のご相談も承ります。

○生前申込み受け付けております。

○詳細はやすらぎの郷霊園管理事務所までお問い合わせください。



## ◇やすらぎ通信

やすらぎの郷靈園では、年四回『やすらぎ通信』を発行しています。靈園からのお知らせや、善光寺の行事紹介などその時々のお話を掲載しています。クロスワードも掲載しました。挑戦してみてください。

きょう彼岸 菩提の種を蒔く日かな

たね

種子さえ蒔いておけば  
いつかかならず芽が出る  
よいたねにはよい芽が  
悪い種子には悪い芽が  
忘れたところに  
ちゃんと出てくる

《詩集『雨の日には雨のなかを風の日には風のなかを』より》

相田みつをさんの詩に『たね』という詩があります。

仏教では因果を説き、ご縁を大切にします。因果とは原因と結果。その間には様々な条件が存在します。それを私たちは「ご縁」といいます。ある一粒の種。その種を土に蒔き、陽にあて、水をやる。やがて芽が出てすすく育ち、花を咲かせます。種がある花が咲く。

お釈迦さまは、

比れあるが故に彼あり、  
此れ起こるが故に彼起こる。  
此れ無きが故に彼無く、  
此れ滅するが故に彼滅す。

と示され、すべてがつながった存在であると説

かれます。

これとかれ（因と果）との間にある条件が縁。太陽や水や土。これらがご縁。目に見える縁、見えない縁。縁は意識するしないにかかわらず、私たちをつなげています。それはあたかも縦横無尽に張り巡らされた糸が一枚の布を織り上げられるように、様々な縁が私たちをかたち創つてくれているのではないでしょう。時の流れに沿う『縦の糸』。今をつながる『横の糸』。

頂いているご縁、その元になる種の部分（因）にしっかりと心を向けることを恩と言います。（因に心で恩）。あなたの恩人は誰ですか？ 今日まで自分を育んでくれたすべてのご縁に感謝。環境も条件。ご縁です。環境によって人は変わる。

道元禅師は『霧の中を行けば、覚えざるに衣しめる』また、『よき人に近づけば、覚えざるによき人となる』（『正法眼蔵随聞記』）ともい

われ、自覚の有無ではなく、自然と身につくものがあると示されています。

子は親の背中を見て育つとも言われますね。出来れば恵まれたご縁の中で歩いていきたいものです。

しかし時として自分では選びようのない環境、逆風の時もあります。

向かい風、逆境に逆らいながら、その中でもしっかりと種を植えて地に根を張っていく生き方をしていつか美しい花を咲かせよう。

NHKの震災支援プロジェクトのテーマソングは『花は咲く』ですよね。

『やさすらぎ通信』31号

## 〈やすらぎ通信 一口コラムより〉

もらっても、あげても嬉しい、お年玉

子供の頃お正月の楽しみといえば、お年玉。

お正月の由来は、新年の神様である『正月さま・年神さま』を家にお迎えする行事にあるといわれます。正月さまが今年一年の生きる力『御魂（みたま）』を授けに各家にやってくる。お正月になると一つ年齢を足す『数え歳』もこの教えからきているのでしょう。

誕生日がきて歳が増える満年齢ではなく、お正月になると皆一斉に年齢が一つ増える『数え歳』。

正月さまが家にくる目印が門松、そして家中の依り代が鏡餅といわれます。そして正月さまの御魂をお雑煮などにして食べることでその力を頂く。また家の主人が家族にこの餅を配る

ことが『お年玉（魂）』をあげる由来とも言われます。その慣習がお餅からお金や品物になったようです。

お年玉をもらって喜ぶのが子供。

その喜ぶ姿を見て喜べるのが大人。

もらうだけでなく、他人に何かを与えることで、その人が喜ぶ姿を見て共に喜べる心。与える喜びを感じることが出来たらいいですね。

お子さんだったら、例えばお手伝いしたら大人の人が喜んでくれる姿に喜ぶ心。難しく考えなくても当たり前のように行っている挨拶や笑顔を与えるだけでも周りの人はきっと喜んでくれていきますよ。

「喜びが喜びを連れてくる」そんな一年でありますように。

## 春になる！

小学生の問題です。

氷がとけると何になるでしょう？

水は0℃で氷になり、一〇〇℃で水蒸気になる。だから正解は……水ですよね。

でもこの問題に、ある生徒が『春になる』と答えたそうです。降り積もった雪が氷になる雪国の子供でしょうか。確かに、暖かくなり氷が解けると春がやってきます。素直でやわらかい発想だと感心してしまいました。

春になり暖かくなると、冬の間枯木のように葉を落としていた桜の木々も一斉に花を咲かせます。

『鳥鳴き、花咲う（笑う）』。きれいな花を観て微笑むことが出来る。幸せを感じることが出

来る季節、春がもうそこまで来ています。

水は温度に依ってそのかたちを変え、草木は気温に依ってその姿を変えていきます。私たち人間は何に依って変わって行くのでしょうか。

冬から春になり暖かくなると気分も陽気になりますが、春になって花が咲いてもきれいだと思えない、なんとなくつまらない、そんな時もありますよね。そんな時は、きつと氷のように心も固まっている時期なのかも知れませんか。何かに執着し自分自身で心を固くしてしまつて、周りが見えない時期。でも何か一つのきつかけで人の心は変わります。

そのきつかけは何か？どこにあるのか？

その答えは案外近くにあるかもしれません。

脚下照顧（きゃっかしょうこ）という言葉がやすらぎの郷事務所内に置いてあります。足下を照らし顧みる。今、ここを大切に、よい縁

に気づくこと。そして春らしい暖かさで人と接することができたなら素敵ですね。ひとそれぞれの花をいつまでも笑顔で咲かせ続けることができますように。

「見るところ花にあらずということなし。  
思うところ句にならざるることなし。」

(松尾芭蕉)

『やすらぎ通信』 33号

今年もお盆の季節が巡って参ります

お盆のお経をあげにご自宅にお伺いする棚経。短い時間ではありますが、心に残るお話を頂戴することもあります。

年老いた母親を見送り、初盆を迎えたある女

性のお宅でのお話。

「厳しい母でしたが、亡くなられて何が寂しいかというと、夕方、夕食の味付けを教えてもらうことが出来なくなってしまう事。今でも味噌汁を作っているとき、ちよつと味見してみてくれる？　なんて言ってしまう事があるんですよ」と語られました。

日常のほんのちよつとした事で感じる寂しさ。

作家の城山三郎さんは奥様に先立たれた後に、「そうか、君はいないのか……」と、ふとした時に思うものだと語られております。

同じく奥様に先立たれたあるお坊さんは、「若い時は、『おーいお茶！』と言っていばつていたけれど、今は『おーいお茶。入ったぞ！』と仏壇にお供えしているんだ」と教えてくれました。

また、幼い孫と遊んでいる時に急に涙がこみ上げてきて「君にも見せたかったなあと……」。何気ない毎日の生活の中、ほんの些細な事が心にくつと響く事があるんだよと話される笑顔の奥に人生の深みを垣間見た気がしました。

お盆には帰ってくる。待つ人の心の中にいろいろな想い出と共に。

今年もお盆の季節が巡って参ります。

『やすらぎ通信』 34号

## 『くち』から出るもの、入るもの

《口から入るもので、

体を傷つけることがあります

口から出るもので、

心を傷つけることがあります。》

口から入れるもの。つまり食べ物です。食べ物には栄養となり私たちの身体を作り、またエネルギーの源となり、細胞の代謝を助けます。

栄養は「さかえる」こと。養は「やしなう」と。食べることは、身体を元気に健康に保つために必要不可欠です。でもこの食べ物や身体が悪化する事もあります。食べすぎ、飲みすぎはもちろんの事、片寄った食生活も体を壊す原因となります。

昨今流行の本では、「これを食べたらだめだ」とか、「これが体によい」とか、色々な情報が溢れています。でも昔からの智慧を学び、旬の食材を好き嫌いなく食べることも大切ですね。腹八分目に医者いらず。「食欲の秋」でもバランスのよい食事を心がけたいものです。

口から出るもの。それは言葉。『口は災いのもと』ということわざがありますが、言わなく



でも良いのについ調子にのってつい一言、口に  
してしまい気まずい雰囲気……。そんな経験  
誰でも一度はありますよね。言葉は相手を傷つ  
けると同時に言った本人も傷つけます。

会話にもスピード・テンポが求められるこの  
頃ですが、頭に浮かんだ事をすぐ言葉にするの  
ではなく、ひと呼吸おいて会話しても良いので  
は……。

くちから入れるもの、出るもの。どちらも毎  
日の生活で大切なものです。

身体や心を傷つけることのないように少し気  
をつけて、毎日を快適に過ごしたいですね。

『やさずらぎ通信』 35号



■クロスワードパズル

〈「やさらぎ通信」 31号〉

☆グレーのマスに文字を組み合わせて

言葉を作ってみてください。

【タテのカギ】

- 1 仏・法・僧の事。聖徳太子は篤くこれを敬えと言われました。
- 2 性格のこと。
- 3 これの無い世界を目指します。
- 4 仏壇にお祀りします。
- 5 二年ごと
- 7 生前を偲び、悼みます。
- 9 罪を悔い、仏前に許しを請う作法の際唱える言葉。
- 12 腕につけるサポーターの一種。
- 15 銀行に預けたお金
- 16 最近忙しく○○多端な日々です。
- 18 ヒマラヤの山 8167m! ○○ラギリ

【ヨコのカギ】

- 1 仏・法・僧に帰依します。
- 6 仏教でいうこの世の苦しみ。
- 8 悟りを求めて修行する。観音様や地藏様。
- 10 フェイスブックでよく見ます。

1		2	3	4		5
		6			7	
8	9			10		
11			12		13	
	14			15		
16			17			18
19						

今日彼岸

□□□□□を詩く日かな

19 17 16 14 13 11

これを味方につけると強いですね。  
 仏教でいう煩惱、三毒の一つ。○○・ジン・チ。  
 西遊記で有名な三蔵法師、般若心経も漢訳しました。  
 魚を入れる網。  
 NHK朝の連続ドラマ『あまちゃん』の主人公 天野○○。  
 日本書紀。建国の天皇。

「やすらぎ通信」33号

「タテのカギ」

- 1 春の初め、新春。
- 2 辛子あえがおいしい春の味。
- 3 働く車、コンクリート○○○○車。
- 4 ○○一輪、一輪ほどの暖かさ。
- 5 季節をあらわす言葉。
- 6 「加減乗除」の減は○○算。
- 7 お餅は○○○○がいい食べ物ですね。
- 8 乾燥剤、○○カゲル。
- 9 奈良から和歌山に流れる川、別名吉野川。
- 10 一つのことには打ち込む、ひたむきなさま。
- 11 お風呂に入る前にはこれをしましょう。
- 12 今回のクイズの出来は、○○上出来かな？
- 13 八幡神社の総本宮、大分にある○○神宮。
- 14
- 15

「ヨコのカギ」

- 1 桜の開花が楽しみです。
- 2 三月は弥生。四月は？
- 3 浜松市にある史跡。○○○○○観音（塚）。
- 4 根室地方の名産。○○○○カニ。
- 5 皮をはぎ、削ったままの木。
- 6 他人のもの。大切に扱います。
- 7 子供や孫の写真の人も多いのでは？
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15

17 16  
アベノミクスで下げ止まり 上昇のきざし？  
神事に使われる弓 万葉集では枕詞

1	2	3		4		5
6			7			
8					9	
				10		11
	12		13			
14		15			16	
17						

（答えは、105ページ）

4月8日は□□□□□

お釈迦様の誕生日

◇やすらぎ寺子屋　くほとけに親しむく

やすらぎの郷霊園では、毎月一回週末に「やすらぎ寺子屋」を開催しています。

お釈迦さまや祖師方のお言葉に触れ、共に学びあい、仏の教えを日常に取り入れて心やすらかな日々を過ごす。そのきっかけになればと始め、来年は五年目に入ります。

《内容》

○椅子坐禅

調身　姿勢を調える

調息　呼吸を調える

調心　心を調える

緊張しないで楽に呼吸がしやすい姿勢を探して座して下さい。

無理せず骨盤を起こし脊柱のカーブも意識してバランスとり、深い呼吸、腹式呼吸で息を長

く吐いて下さい。

浮かんでくる想いに心を乱されないよう連想、物想いにふけることないよう、姿勢と呼吸に意識を戻して、今を感じて下さい。

気持ちがつつきりとなりますよ。

○法　話くお経に親しむく

「お経に親しむ」と題し、善光寺経本をテキストに『開経偈』から毎月レジュメをお配りして学び始めました。一年かけて『般若心経』が終了し、続いて『修証義』を一節ずつ扱っていきます。

来年は、第四章の「発願利生」からです。言葉の解説だけでなく、その背景や行間を感じていただけるように共に勉強していきたいと思えます。

## ○茶話会にて

お経の勉強の後には、その時々話題になったニュースや歌などを紹介しながらお茶をいただいています。たとえば、新聞の切抜きから…。

### 『読売新聞』編集後記より

◆めしべとおしべだけでは受粉できない。風や虫が仲立ちをする。先日八十七歳で亡くなった吉野弘さんに『生命は』という詩がある◆（生命は、その中に欠如を抱き、それを他者から満たしてもらうのだ）（詩集『贈るうた』）。草花に限るまい。人の一生にも、受粉を助けてくれる風や虫がいる。その人には、愛らしい少女が「風」であつたらしい◆若手ダンサーの登竜門、ローザンヌ国際バレエコンクールで長野県松本市の高校二年生・二山治雄さん（十七）が優勝した。七歳でバレエを始めたきっかけは「好きな女の子がやっていたから」という◆風は受粉

を手伝おうと吹くのではない。二山さんとバレエを結びつけた少女もたぶん今、自分が大輪の花を咲かせる手伝いをしたことに気づいていないだろう。えにしの糸の不思議さよ◆吉野さんの詩は結ばれている。（私も あるとき、誰かのための虻だったろう、あなたも あるとき、私のための風だったかもしれない）。愛らしかった時期こそないが、小欄が知らず知らず受粉を手伝った花も、どこかに咲いているのだろう。根拠のない想像に、ちよつと胸を張る。

（平成26年2月4日付）

生命のつながり、ご縁や般若心経の空のイメージを語り合いました。

生命は

生命は

吉野 弘

自分自身だけでは完結できないように  
つくられているらしい

花も

めしべとおしべが揃っているだけでは  
不充分で

虫や風が訪れて

めしべとおしべを仲立ちする

生命は

その中に欠如を抱き

それを他者から満たしてもらうのだ

世界は多分

他者の総和

しかし

互いに

欠如を満たすなどとは

知りもせず

知らされもせず

ばらまかれていている者同士

無関心でいられる間柄

ときに

うとましく思うことさえも許されている間柄

そのように

世界がゆるやかに構成されているのは  
なぜ？

花が咲いている

すぐ近くまで

蛇の姿をした他者が

光をまとって飛んできている

私も あるとき

誰かのための蛇だったろう

あなたも あるとき

私のための風だったかもしれない

〈詩集『北入曾』より〉  
きたいりぞ

新聞の切り抜きをもう一つ……。

『読売新聞』 編集手帳より (抜粋)

◆月刊誌「文芸春秋」の編集長などを務めた車  
谷弘さんが、作家の内田百閒に叱られた思い出  
を著書「わが俳句交遊記」に書いている。百閒  
に「お忙しいですか」と聞かれ、「忙しくて困

「忙しい」と答えたときのことという◆「忙しい」といのは、それは人に向かって尋ねるときの言葉ですよ。自分で自分を忙しいというのはバカです。一日二十四時間を自分で適当に処理できないで、どうしますか」と◆その説に従えば恥ずかしながら、一年のほとんども「バカ」で通している。上に「大」の字がつくのはやはり、仕事は何かと立て込む年の瀬である(中略)

◆そう言いつつ、差しあたって読む暇のないミステリー小説を求めて書店をうろつき、出かけもしない旅の行程を時刻表で調べている。忙しい時ほど心がよそに遊ぶのはなぜだろう。「極めてつきのバカだからです」と百閒先生の声が聞こえる。

〈平成20年12月24日付〉

誰でも経験があると思いますが、「忙しい時ほど、心がよそに遊ぶのはなぜだろう」。

心をよそに遊びにいかせないで、「今、ここ」に落ち着かせる。それが禪だと思うのですが、どうでしょう。なかなか出来ませんが、坐禅して少しでも「バカ」から抜け出すことができたらなあ……。

《やすらぎ寺子屋 平成二十七年 上半期の予定》

第四十四回 一月 十日(土)

第四十五回 二月 一日(日)

第四十六回 三月 一日(日)

第四十七回 四月十一日(土)

第四十八回 五月 九日(土)

第四十九回 六月 七日(日)

○椅子座禅(約40分)

○読 経(約5分) 般若心経

○法 話(約15分) 『修証義』講座

・『修証義』第四章から一緒に学びましょう。

茶話会 ちよつとひと息





秋彼岸法会 九月二十日

法話 長泉寺住職 水庭浩章師

午前・午後あわせて六百名の方が、心に菩提の種を蒔きに参拝されました。

冒頭、善光寺留学僧育英会の第二十四回育英生・樋口星覚師より、檀信徒の皆様にお礼の挨拶がありました。師は現在ドイツに在住し坐禅堂を開くなど活躍されています。

ドイツでの布教の難しさを述べつつも、困った時には皆様の事を思い出し、応援してくれる人がいると思うと力が湧いてきますと、感謝の言葉を口にされました。

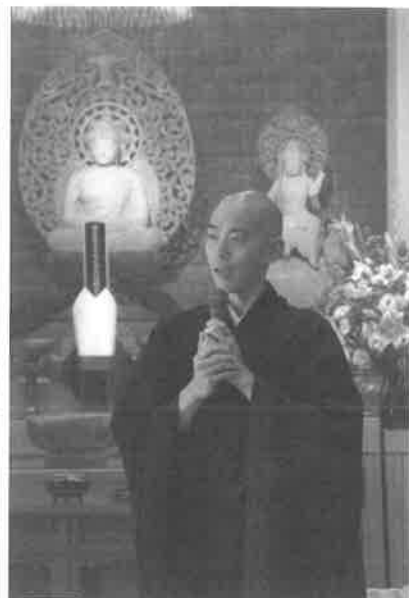
檀信徒の皆様の尊い浄財が若く有望な人材を育てて下さっています。心から心へ、皆様のご理解・ご協力に心より篤く深く感謝申し上げます。

水庭師の法話は34ページをご覧ください。

— ニュース・アラカルト —



水庭浩章師



樋口星覚師

【平成二十六年】

新年祈祷会 一月九日

法話 当山住職

昨年から始まった、善光寺講座『論語からのお話』に因み、今年目標は学習ですと宣言。

子曰く、学<sup>まな</sup>びて時<sup>とき</sup>に之<sup>これ</sup>を習<sup>なら</sup>う、亦<sup>また</sup>悦<sup>よろこ</sup>ばしからずや。朋<sup>とも</sup>、遠<sup>えん</sup>方<sup>ぽう</sup>自<sup>よ</sup>り来<sup>きた</sup>る有<sup>あ</sup>り、亦<sup>また</sup>楽<sup>たの</sup>しからずや。人<sup>ひと</sup>知<sup>し</sup>らずして、慍<sup>いきどお</sup>らず、亦<sup>また</sup>君子<sup>くんし</sup>ならずや。



## ニューズ・アラカルト

節分追難法会 二月三日

善光寺総代 東郷敏氏

節分に因み暦の「二十四節季」。

大自然の摂理、地球の自転や子午線・黄道や大円などについてユーモアを交えて説明して下さいました。

ご祈祷の後は恒例の豆まき。魁<sup>かい</sup>聖<sup>せい</sup>関<sup>かん</sup>らによる豆まきも今年で三年目。今年特別に友綱部屋の力士衆による、ちゃんこ鍋も振舞われました。

「福はうち！」この一年皆さまに障りなく厄除け、招福ご多幸をご祈念致しました。

(写真は巻頭のグラフページをご覧下さい)

春彼岸法要 三月十九日

法話 観音寺住職 黒田法正師

四月に予定されている伊勢神宮参拝旅行に因み、ご自分の師匠である光真寺先代住職黒田俊雄老師と参拝した時のエピソードを話して下さいました。

神前、神様の前でも大きな声で般若心経を唱えられた師匠との思い出を語り、今度の参拝には「是非、一緒に『般若心経』をお唱えしましょう」と誘われていました。

続いて廻向の後にお唱えする「略三宝」についてのお話。皆さま一緒にひと際大きな声でお唱えをして法要が結ばれました。

十方三世一切仏

諸尊菩薩摩訶薩

摩訶般若波羅蜜

ニュース・アラカルト



## 震災義捐金の御礼

震災直後に皆さまからお寄せ頂いた東日本大震災被災者義捐金につきましては、曹洞宗ボランティア（SVA）を通して現地に寄付させて頂きました。

善光寺では継続しての支援を続けたいと思っております。その一環として先日、皆さまよりお納め頂きました「護持会費」の一部を今年も神奈川新聞厚生文化事業団を通し日本赤十字社へ寄付させて頂きました。

個人の支援も含め寺としての支援も継続して行って参りたいと思います。

ご報告と併せ、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## ニュース・アラカルト



## やすらぎの塔開眼式・

### 合同合祀慰霊祭

横浜やすらぎの郷霊園内に合祀施設「やすらぎの塔」が建立され、去る五月十二日、住職導師の下、「やすらぎの塔」開眼式と、合同合祀慰霊祭が執り行われました。

合同合祀慰霊祭では、やすらぎの碑より安置期間の経過した御霊をやすらぎの塔へ埋葬致しました。縁故者や関係者ら二十名を越す参列の中、一時間半にわたり、ねんごろなるご供養が営まれました。

大きな供養塔の正面に「やすらぎの塔」と刻まれている文字は住職による揮毫。

桜の木々の間、やすらぎの塔と並び、やすらぎ観音さまが優しく微笑みかけて下さいます。

二五一ヌ・アラカルト





溪流釣りに行ったたり、シヨツピングダに行ったたりしました。私たち兄弟を我が子のように面倒を見てくれました。

私が成人し、永平寺での修行期間中、半年ほど吉峰寺というお寺に配属されました。このお寺は永平寺から車で三十分から四十分の所にありました。そこに配属されている時に、ある日突然伯母が励ましに来てくれました。

そのお寺は山の上に在り、険しい山道を登らなければ来ることのできない場所にありました。階段が二百段近くあるのではないかという大変厳しい山道で、そこを両手いっぱい差入れの野菜や果物を持って上って来てくれたのでした。

本当に嬉しかったです。ありがたかったです。

これは伯母が、ただただ私のことを思っ

## ニュー・アラカルト

てくれたことなのです。

思っけても行動に移すことがなかなか出来ない事も多い中、伯母は、なんでもすぐに行動に移し、みなさんのお世話をしてこられました。福井訛りのイントネーシヨンで少しせつかちに話すその言葉も、もう掛けてもらえないと思うととても寂しい気持ちで一杯になります。

十年前、師父が遷化した朝も、年の暮れで常在院も忙しいのに泊まり込みで面倒を見てくださり、とても心強く感じた事を思い出します。

「大変な事になったけど、みんなで助け合うから、ひろちゃん頑張つてなあ」と、何度も励まして頂きました。

母とは話し方も性格もちがう伯母でしたが、寺族として住職を支え、寺を護るその信念の強さ、芯の通つたまつすぐな心は似ている姉妹だと感じます。

亡くなる前の年の三月に横浜に來られた際に、私の子供をみてくれた時が、最期のお別れとなつてしまいました。

伯母を思い出すとき、とりとめのない思い出が胸にあふれますが、今はただ、ただありがとうございますと感謝の言葉があるのみです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。  
ありがとうございます。

— ニュース・アラカルト —







33号

1ハ	2ナ	3ミ		4ウ	ツ	5キ
6ツ	バ	キ	7ヒ	メ		ゴ
8ハ	ナ	サ	キ		9ハ	
ル		ー		10シ	ラ	11キ
	12イ		13カ	リ	モ	ノ
14マ	チ	15ウ	ケ		16チ	カ
17ア	ズ	サ	ユ	ミ		ワ

答え ハナマツリ  
(花まつり)

31号

1サ	ン	2キ	3カ	4イ		5カ
ン		6シ	ク	ハ	7ツ	ク
8ボ	9サ	ツ		10イ	イ	ネ
11ウ	ン		12ヒ		13ト	ン
	14ゲ	ン	ジ	16ヨ	ウ	
18タ	モ		17ア	キ		19タ
18ジ	ン	ム	テ	ン	ノ	ウ

答え ボダイノタネ  
(菩提の種)

【クロスワードパズルの答え】

# 坐禅会・写経会のお知らせ

加下さい。

## 坐禅会

善光寺では毎月第一日曜日の早朝六時からと、第四日曜日午後三時から坐禅会を行っております。

早朝坐禅の後は、朝のお勤めをし、その後、禅寺の作法に従って、お粥を召し上がっていただきます。

午後の坐禅会は、坐禅を二炷。そして、読経・法話。

これまでに坐禅の経験のない方、初心者の方のご参加もお待ちしております。お気軽にご参



## 平成27年 善光寺坐禅会 年間予定表

### ■早朝参禅会 毎月第1日曜日 朝6時から

1月4日(日)	7月5日(日)	午前 5:45 集合 6:00~ 坐禅・読経 7:30~ 朝食(お粥) 8:15 解散
2月1日(ㇿ)	8月2日(ㇿ)	
3月1日(ㇿ)	9月6日(ㇿ)	
4月5日(ㇿ)	10月4日(ㇿ)	
5月3日(ㇿ)	11月1日(ㇿ)	
6月7日(ㇿ)	12月6日(ㇿ)	

早朝参禅会参加希望の方は、前日午後7時までにご連絡下さい。

### ■日曜坐禅会 毎月第4日曜日 午後3時から

1月25日(日)	7月26日(日)	午後 3:00~ 準備・指導 3:20~ 坐禅 4:00~ 経行・小休 4:10~ 坐禅 5:00 解散
2月22日(ㇿ)	8月23日(ㇿ)	
3月22日(ㇿ)	9月27日(ㇿ)	
4月26日(ㇿ)	10月25日(ㇿ)	
5月24日(ㇿ)	11月22日(ㇿ)	
6月28日(ㇿ)	12月27日(ㇿ)	

参禅希望の方はご連絡下さい。当日でも結構です。

### ■水曜朝坐禅 毎週水曜日 午前7時から8時迄、坐禅と読経

それぞれ日程は寺の行事によって変更があります。  
服装は、ゆったりとしたもの、靴下は履きません。  
時計やアクセサリは、はずして下さい。

※ 参加費はすべて無料です。



## 写経会

お写経は、自らの信仰を深めるだけでなく、ご先祖の追善、あるいは諸願成就の祈りを込めて行う一つの修行です。

善光寺では月一回、左記にて「写経会」を開催中です。

どうぞご参加ください。

【日時】 毎月第四金曜日

午後二時より一時間半

【場所】 善光寺不動殿

【読経】 「般若心経」を全員で看読

【写経】 引き続きお写経「般若心経」

【費用】 無料

※お手本・筆・硯・墨・写経用紙なども一式準備

平成27年

### 善光寺写経会年間予定表

1月23日（金）	7月24日（金）
2月27日（ㇿ）	8月28日（ㇿ）
3月27日（ㇿ）	9月25日（ㇿ）
4月24日（ㇿ）	10月23日（ㇿ）
5月22日（ㇿ）	11月27日（ㇿ）
6月はお休み	12月25日（ㇿ）
午後	
2：00～	読経 「般若心経」
2：10～	写経
3：10～	読経
3：30	解散

備します。ご自分の道具を持参されても結構です。  
※参加の方は準備の都合上、ご連絡下さい。

坐禅会・写経会ともに連絡先

善光寺 横浜市港南区日野中央一十二一九

(三三三四一〇〇五三)

電話：〇四五―八四五―一三七一

FAX：〇四五―八四六―二〇〇〇

Eメール：info@zenkoujinet

URL：http://zenkoujinet



## 華道教室

今年から、新たに華道教室を開設いたします。

平成 27年	1月27日(火)	7月28日(火)	毎月第4火曜日 午後2時～3時半
	2月24日(火)	8月25日(火)	
	3月24日(火)	※9月30日(水)	
	4月28日(火)	10月27日(火)	
	5月26日(火)	11月24日(火)	
	6月23日(火)	12月22日(火)	

【参加費無料】お花代として、毎回 **¥1,000** ご準備ください。

指導：本多輝隆 先生

フラワーデコレーター協会本部講師

池坊正教授一級師範

華道教室「花塾」(港南区丸山台)



※参加ご希望の方は、一週間前までにご連絡ください。

---

## 書道教室

毎月第1・第3土曜日 午後1時～3時

【会費無料】(お手本代 **¥480**/月)

※参加ご希望の方は、ご連絡ください。





### 〔目的〕

仏教を修学する者のうち、学業操業ともに優秀にして身心堅固なものを海外に派遣し、または海外より日本国内に受け入れ、佛教の興隆、国家社会の進運に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする。

### 〔派遣先〕

1. Zen Center of Los Angeles (LA 禅センター)  
"923 S.Normandy Ave., LA., CA90006U.S.A"
2. Zen Mountain Center of NewYork (NY 禅センター)  
"Box197,Mt.Tramper,NY12547U.S.A"
3. Zen-Zentrum Eisenbuch (アイゼンバッハ・禅センター)  
"Eisenbuch 7 D-84567Erlbach Deutschland Germany"
4. WatPaknam (ワットパクナム)  
"Bhasichareon Bangkok, 10160 Thailand"
5. 理事会において必要と認めるその他の国に所在する研究機関、並びに国内仏教関係大学及び寺院

### 〔派遣期間〕

平成27年4月より1年間

### 〔給費〕

アメリカ・タイおよびその他の国における滞在に要する  
必要経費並びにその往復旅費

### 〔提出書類〕

1. 論文 (次項による)  
○論題  
①これからの国際興隆と仏教の役割  
②世界平和と仏教徒の誓願  
③留学僧として私はこれを学びたい  
④異文化の中で仏教を学ぶ  
いずれか一題を選ぶこと 400字詰原稿  
用紙5枚以上 (A4判タテ書き)
2. 保証人と連署した願書
3. 卒業証明書
4. 履歴書
5. 推薦書
6. 健康診断書

### 〔募集人数〕

平成27年度若干名

平成26年12月10日、事務局必着のこと

### 〔発表〕

平成27年1月10日、本人に通知する

### 横浜善光寺留学僧育英会

〒234-0053 横浜市港南区日野中央1丁目12番9号  
TEL.045-845-1371 FAX.045-846-2000



# 第 28 回 生

# 横浜 善光寺 留学僧募集

平成27年度・2015

横浜善光寺留学僧育英会は、海外留学僧を募集いたします。

ご希望の方はご応募ください。

詳しくは、宗教法人横浜善光寺留学僧育英会の  
規程ならびに細則をごらんください。



**ZENKŌJI**  
YOKOHAMA

## 普門寺からのお便り

ヨーロッパ国際布教師

大悲山普門寺アイゼンブッフ禅センター

中川 正壽

■平成二十四(二〇一三)年十二月

拝啓 本年も押し迫りました。ご清祥にお過ごしのことと存じます。

ここ一年身辺いろいろありました。日本の御寺院とは異なり、法の後継者がいないこの普門寺では来年より私がお寺部門一人となつて生活する分、これまで育ててきたサンガのメンバーを盛り立てて、毎回の禅のコース、境内の野菜畑など二、三人ずつを当てて担当することになっています。メンバー自身での討議実行試行錯

誤となります。実際彼らがやらなければ人がいないのですから、みなもそろそろ来年からの新しい状況がわかってきたようで、よくなる方向は芽生えてきていますが、しかし私の舵取りが一番大切なところでしょう。その舵取りがまた私の一番苦手とするところでドイツ語習得と同じく見込みはありません。

グループが小さいものですから、私の人の良さでよきにつけ悪しきにつけ、こんな私から離れた者、いまだに信用してびったりとついて来る者といういろいろある中で、サンガができてからは一層まとまるようになっていきます。典座、堂行、維那と順番に受け持っています。全体としては普門寺は新しい展開を必要としています。スタッフの代わりにセミナーハウス経営担当者を入れ、給料を払います。もつともその給料をその人が稼ぐわけですが、そして専門にセミナー部門を経営してもらいます。

これまででここに来る者を将来普門寺を支えることのできる人物にしたいと努力してきましたが、彼らの必要とするもの、また体力、気力、素質、性格、育ってきた家庭事情などのいろいろな要素があつて、私の指導の下、本人たちは大いに充足を感じるようでしたが、私としては私一人ではこなしきれないジレンマを感じてきました。

ここに私の助手として先生格の者が二人ほどもいればまた違うでしょうが、日常彼らのために時間・エネルギーのほとんどを費やし、これらの若者がこれから先八年、十年とかかつて成長するかどうかを待つということになりますが、元々出家の志を立てたわけではない人たちなので、今後恋愛にしろ職場にしろ本人がその気になれば即刻出て行くというわけですから、私も六十六歳、この普門寺にいる私自身の五年先、十年先を考えて、今回長年の夢であつた若いス

タッフ三人を含む計四人の解散を宣言したことでした。

さてドイツは雪こそ少ないものの、夜は氷点下三度から八度ぐらいで日中も曇天の日が大半となります。私などには鬱陶しいことですが、それなりの味わいもあります。

この夏は普門寺単独主催邦楽コンサートを企画実行し、大変貴重な喜ばしい体験だった一方、こういうエンターテイメントの仕事の大変さから思ひ知らされました。日本から来られた御一行からは大変喜ばれ私どもに感謝されました。これも普門寺のスタッフの面々、サンガメンバーの協力、さらに通訳司会をしてくださった日本人女性や、その前にあつたミュンヘンでの独日協会、日本人会共催の折りにボランティアで協力いただいた方々と数限りない方々の奉仕によつてできたことでした。詳しくはホームページをご覧ください。

来年一月早々より三月八日まで修行としてここを離れております。また四月の二十六日は宮崎禪師の七回忌でありますので永平寺に参りますが、四月前半はここで二つのコースを務めなければなりませんので、残念ながら予定されている妙元寺様の法要には随喜できません。

どうぞよき新年をお迎えいただけますように祈念申し上げます。

合掌

中川正壽九拝

## ■平成二十五(二〇一三)年度報告

曹洞宗ヨーロッパ国際布教総監部への年度報告

第一 普門寺における活動はプログラムの通り  
第二 普門寺主催になる邦楽コンサートを七月  
トラウンシユタイン市にて開催。

第三 ミュンヘン参禅会「正法会」を指導

第四

・四月 プラハにて講演と二日の参禅会

中部ドイツ、ホーフヘレンベルクにて  
禅の講演

・五月 永平寺本山に安居した北海道の伝法智

道師が六月十九日まで当山にて研修

・六月 十八日より七月七日までサンガメンバ

ーの円光、慈光の二人を東京永見寺様に袈裟把針習得のために派遣

・八月 ミュンヘン在住の庵下まゆみさんに御

来山いただき、一日懐石料理を指導していただく

・十二月 二十六日より一月十一日まで本山派

遣留学僧 壽山俊道師が当山にて研修

第五 五月と九月にミュンヘン・ウエストパルクのネパール・パゴーデにて禅の講演

第六 キリスト教系メデイーションセンター

としてドイツ随一の規模を誇るベネディクトゥスホーフにおいて十月十一日より十三日の間「スピリチュアリティと科学」のタイトルのもとに大がかりなシンポジウムが開催されたが、中川は参禅指導と三十分の講演を担当。講演者、参加者ともに大学関係者、医療関係者、哲学者、心理学者、心理治療家、禅の実践者が多かった。

本年は邦楽コンサートが普門寺主催による一大イベントであった。普門寺は本来日本伝統文化の紹介と支援も活動の一部としていたので、四月二十八日の春祭りの折には、ミュンヘンに拠点を置く和太鼓グループ「黒竜太鼓」を招聘したが、コンサートは尺八奏者二人、長唄唄方三人、三味線方三人であり、三つの会場でコンサートを催し、普門寺が裏方一切をお世話した。滞りのない運びと大盛況に喜ばれ感謝されたが、日本への対応は中川一人で務めたので、禅

センターとしてこうした催しを主催することの限界を感じた。

来年より待望の袈裟把針の「福田会」が発足する。過去幾たびとなく日本より来ていただいて指導を受けてきたが、その度ごとに習ったドイツ人が日本へ行くなどして定着しなかった。今度は普門寺近在のサンガメンバーが習ってきたので定着発展するだろう。

来年は特にサンガの自主性とそれなりの活躍が期待される。

以上

「愛禪佛府」……アイゼンブッフ

「禪を愛する仏たちのすまい」

「府」には「貴人の邸宅。屋敷。住まい」の意味があります。

「愛禪」とは禪を愛する、つまり禪を行すること。

「佛」とは道元禅師の著書『正法眼蔵』の中の「行佛威儀」の巻に以下のごとく示されています。

※諸佛かならず威儀を行す、これ行佛なり。

※佛向上の道に行履を通達せること、唯行佛のみなり。

※しるべし、生死は佛道の行履なり、生死は佛家の調度なり。

※了生達死の大道すでに豁達するに、ふるくよりの道取あり。

大聖は生死を心にまかす。この宗旨あらはるる、古今の時にあらずといへども、行佛の威儀忽爾として行盡するなり。道環として生死身心の宗旨、すみやかに辨肯するなり。

さらに『正法眼蔵』「生死」の巻にはこのように教えられています。

※ただわが身をも心をもはなちわすれて、佛のいへになげいれて、佛のかたよりおこなはれて、これにしたがひもてゆくとき、ちからをもいれず、こころをもつひやさずして、生死をはなれ、佛となる。

「愛禪佛府」における「佛」とはこの意味における「佛」であり、「行佛」です。その「仏たちのすまい」、つまり「道場」がこの「アイゼンブッフ」です。



## 育英会寄付者

### ■平成二十五年度(追記)

神奈川区 瀧澤 孝子殿  
江東区 西谷 恒殿  
旭区 半澤 範之殿  
南区 大森 キクエ殿  
旭区 中村 美代子殿  
港南区 桂川 正克殿  
港南区 増山 静江殿  
沖縄県 佐渡山 安慶殿  
西多摩郡 宮田 林産(株)殿  
港南区 南 有里殿  
港南区 森 佐二郎殿  
港北区 瀧澤 武雄殿

### ■平成二十六年年度

港南区 森 佐二郎殿  
港南区 貞昌 院殿  
新宿区 吉田 日光殿  
磯子区 越石 重博殿  
港北区 瀧澤 武雄殿  
新宿区 東亜建設工業(株)殿  
金沢区 太寧寺山本浄月殿  
台東区 翠雲 堂殿  
川崎市 宮田 富夫殿  
港南区 鳥居 秀行殿  
磯子区 國廣 敏郎殿  
港南区 熊谷 豊太郎殿  
都筑区 阿部 匡宏殿  
町田市 鈴木 幸雄殿



柏 市 伏見 邦 弘殿  
 港南区 (株)せんざん山泉篤殿  
 茨木市 東雲寺 安井隆同殿  
 旭 区 沼倉 みのもる殿  
 長野県 正眼院 内山款偉殿  
 江東区 西谷 榮殿  
 世田谷区 富田 繁殿  
 西多摩郡 宮田林産 (株)殿  
 港南区 桂川 正 克殿  
 高槻市 東郷 敏殿  
 富山県 浅香 恵殿

ありがたいご寄付を賜り、

心より厚く御礼申し上げます。





これぞ仏祖の正法

大乘寺山主 東隆眞老師

石川県

拝啓 只今『成寿』四十三号拝受いたしました。

先代武志老師の誓願「宗祖を通して釈尊に還る」は実にすばらしい。これこそ仏祖正法の正法を端的にあらわしたお話です。ほんとうにありがたい。

子を持って知る親の恩

興禅寺住職 木崎浩哉老師

福井県

『成寿』四十三号有り難く拝掌しました。厚く御礼申し上げます。仏道の実践と育英の利行等々美しく綴られた全頁を有益に楽しく読ませて頂きました。

就中、俊雄老師の御遷化はまことに痛惜の情にたえません。そして、第一子ご誕生の朗報は、最上の至福、心からお喜びを申し上げます。子を持つて知る親の恩とか……さらなる孝順の願行と、ご法体

のご自愛を切にご祈念申し上げます。  
合掌

教学の糧と……

清水寺貫主 森清範様  
京都市

平素は当山に対し格別のご懇情を頂き 尚その上此度『成寿』第四十三巻を御惠贈下され誠に有難うございます 当山の貴重な蔵書として納め、教学の糧とさせて頂きたく寸書をもって御礼申し上げます 合掌

一層の興隆を御祈念

神奈川県  
宮本延雄先生

このたび『成寿』を御惠贈賜り衷心より感謝いたします。 貴寺の一層の興隆を御祈念申し上げます。

六月、香風萬里

埼玉県  
蓮光寺住職 今泉源由老師

拝啓 『成寿』拝受しました。

樹里ちゃんのご誕生おめでとうございます。六月十四日

から開花した当山の蓮の花。

今日は伊勢神宮蓮と唐招提寺蓮が咲きました。明朝には常陸蓮が笑いそうです。

善光寺様も樹里ちゃんを中心に香風萬里。ありがとうございます。皆様どうぞお元気で。

継続の難しさに敬意

福島県  
円通寺住職 吉岡棟憲老師

『成寿』四十二号届けていただきありがとうございます。継続することの難しさを乗り越え発行を続けることに敬意を表し、益々中身が充実

していくことに賛意を送りま  
す。

紙面から頂戴した数々の情  
報は私たちにとつても大変役  
立つものばかりですので今後  
の活動に使わせていただきま  
す。ありがとうございます。

### 世界に発信

松庵寺住職 渡邊紫山老師  
秋田県

拜復 『成寿』 拝受 方丈  
様の自然体が何とも安心を与  
えてくださいます。

実母の葬儀には、有り難う  
ございました。六月、一周忌  
を長野で済ませ、帰り道に足

利の高福寺武井全補老師を訪  
ねました。本山送行以来の邂  
逅で、御本師様の著書を頂き  
ました。哲應老漢は秋田の人。  
白純老師のお父様も秋田の鎧  
家でしたね。宗門の正統なお  
悟りが栃木で、横浜で、そし  
て世界に発信されている様  
で、感激しています。

### 隅々まで拝読

石黒玄章師  
長野県

冠省 この度も『成寿』を

ご恵贈頂き、厚く御礼申し上  
げます。さっそく隅々まで拝  
読させていただきました。檀

信徒の皆さまと任職を中心と  
して仏さまの御教えを実践し  
ているお姿に小生も益々頑張  
らねばと思つた次第です。今  
後ともよろしくお願いします。  
又、第一子御誕生誠におめ  
でとうございます。命のリレ  
ー。先代さまの願いと共に健  
やかなご成長お祈りしていま  
す。

合掌

### 支えられる日々感謝

瀧澤武雄様  
神奈川県

拜啓 雨上がりの青葉がひ  
ときわ鮮やかに感じられるこ  
の頃でございます。旅行の折

には大変お世話になりました。楽しい素晴らしい旅でした。その上、思い出の写真をご送付頂き誠に有り難うございました。又、楽しかったひとときを思い出しております。

日頃善光寺様に支えられ日々健康でこのように旅行に参加出来ますことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。末筆ながら善光寺様の御発展をお祈り申し上げます。

楽しい伊勢参拝でした

神奈川県  
山越しづぶ様

拝啓 新緑の候 いつも大変お世話様になっております。

又、先日は楽しい伊勢神宮参拝に御一緒させていただきました。してありがとうございます。豊川稲荷、伊勢神宮参拝ととても有意義な一泊二日の旅でした。皆様の御心遣いに感謝申し上げます。又、記念写真を義妹の分までお送り下さいます。ありがとうございます。

時節柄どうぞ皆様御自愛下

さいませ。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

再び坐禅会に

参るのを楽しみに

神奈川県  
山田和雄様

『成寿』四十三号拝受、有り難うございます。法話をはじめとして、内容豊富で大変勉強になります。小生、心臓バイパス手術後で療養中ですが、再び善光寺様の坐禅会に参るのを楽しみにしております。一層のご活躍をお祈り申し上げます。

## 先代様とのご縁を大事

磯村（早田） 啓子様  
東京都

『成寿』第四十三巻拝受いたしました。博志方丈様がご立派に先代様の事業を継承発展されているご様子が『成寿』に溢れておりました。

又、この度のお子様のご誕生も誠にめでとうございます。

私も先代方丈様とのご縁を大事に頑張っております。先に出版した拙著をお送りしましたが、届いていますでしょうか。六月はじめにはバンク

ーバーのブリティッシュ・コロンビア大学で発表して参りました。どうぞ皆様ご健勝で。

## 育英生採用に感謝

向 慧様  
東京都

横浜善光寺留学僧育英会の皆様

暑い日が続いてますが、皆様お元気でしょうか。先日確かに『成寿』を受け取りました。今年度の育英生に採用していただきまして、心から感謝しております。

現在の大学院の勉強状況を説明させていただきますと、

六月二十六日に東洋大学大学院の発表会に参加しました。

その前に三ヶ月間発表会の論文を準備して、いただきました奨学金をもとに研究内容に關する書籍を購入することができました。日本語の口頭表現はまだですが、私にとっていい経験になったと思います。

今は、更に発表した内容から読み深めて論文を修正し、来年の四月には学術誌に投稿したいと思っております。学術誌に採用された折には、ご連絡差し上げます。

まだまだ暑い日が続いていますが、ご自愛下さいませ。

うれしいプレゼント成寿

千葉県  
藤田正子様

来る日も来る日も暑くうつ  
とおしい今日この頃ですが、  
またまたうれしいプレゼント  
が私の元に届きました。『成  
寿』第四十三巻です。表紙は  
なつかしい我が師の故伊藤三  
喜庵先生の作品です。力強い  
作品は「がんばりなさいよ」  
と、私に言っつてらっしゃるよ  
うな気がいたします。

ご本の中には、うれしいお  
便りが一杯で、心あたたまる  
気持ちになります。又、黒田

博志住職にお子様ご誕生のお  
知らせ、おめでとうございま  
す。私もまだまだ皆様に習い、  
元気に生きてゆきたいと感じ  
ております。ありがとうございます  
いました。

平常心で手術に感謝

富山県  
浅香恵様

樹里様のご誕生おめでとう  
ございます。亡き武志大和尚  
さまも天国で喜んでおいでの  
ことと存じます。

私は乳ガンになり、右乳房  
を四分の一切除しました。平  
常心で手術が受けられたのも

『成寿』を読ませていただい  
ているおかげだと思い、深く  
感謝しています。

これからもよろしく願ひ  
します。かしこ

飾らぬご人徳のおかげ

神奈川県  
國廣敏郎様

暑中お見舞い申し上げます。  
法要ごとに大変賑わってい  
て嬉しい限りです。方丈様の  
飾らぬご人徳のおかげです。  
先日の先代墓開きに

風薫る

緑の丘や

師の墓標

真清浄寺 吉田日光師

冠省 南無妙法蓮華經

施本、ありがとうございます

す。浄仏国土建設の為に全国

の僧侶立ち上がろう。

《癒し絵》

高島 豊様

癒し絵で個展も開催される

などご活躍。東日本大震災被災

地でボランティアも行って

おられます。

坐禅会、写経会など各行事

に積極的に参加されています。



暑中お見舞い申し上げます





《絵手紙》

越石哲永様

善光寺留学僧育英会第三期生。脳梗塞を患うも善光寺講座「論語からのお話」に出席されるなど心身のリハビリに努めている。毎月、心のこもった絵手紙を送って下さります。



## 編集後記

▼成寿四十四号お届け致します。

今年、各地で自然災害の多い年でした。二月には関東で二週続けての豪雪。八月には京都や兵庫での集中豪雨。広島土砂災害、台風十九号の日本横断。御岳山の噴火。：。当たり前のようにあると思う明日が当たり前でない現実を見せつけられ、自然への畏怖をまた新たに致しました。東日本大震災の復興もまだまだ。被災されました多くの方々へ心より御見舞い申し上げます。今年も一日も早い復興を祈念致します。今年もお寺に寄せられた浄財の一部を寄附させて頂きました。

▼節分の豆まき。鳥居総代のお世話で友綱部屋の力士衆、魁聖関による豆まき。今年特別にちゃんこなべの炊き出し。嬉しそうに召し上がる人々の笑顔にこちらもニッコリ。(株)板橋様による特設舞台やテントの設営、陰でご尽力頂いた後援会長はじめ多くの方々のお力です。感謝申し上げます。

▼横浜やすらぎの郷霊園に合祀墓、『やすらぎの塔』を建立致しました。昨今お

墓事情も様々ですが時代に流されず、寺として供養を中心にした霊園づくり。お墓にお悩みの方、ご相談下さい。

▼来年は大本山總持寺二祖峨山韶禪師六五〇回大遠忌です。善光寺でも団体での参拝を予定しています。(平成二十七年九月二十九日)詳細は後日ご通知申し上げますが、檀信徒各家のご先祖様のご供養と先代住職の供養もお勤めいただく予定です。

▼六年後の二〇二〇年には東京オリンピックが開催。巷では「それまでは長生きしたい。冥土の土産話にしたい」などの声もちらほら。健康寿命が延び元気の張り合いになるのなら何よりです。

▼先代住職の『茶禅一味』。

「お・も・て・な・し」の精神。お茶の侘び、活き活きとした禅の心を説いて止まないその言葉は今一度皆さまと味わいたく再掲載させて頂きました。

▼会者定離。伊藤初枝元婦人会会長がご逝去されました。故伊藤喜三郎(三喜庵)先生の奥様。先代住職夫妻の仲人でもあり、善光寺の各行持や旅行にも度々参加して下さい公私共に大変お世話になりました。衷心よりご冥福を

お祈り申し上げます。

▼善光寺講座、お寺で論語を学ぶ。仏教と論語が解けあう世界。老若男女皆さまアツという間の一時間です。共に楽しみながら学びましょう。

来年は坐禅会や写経会、書道教室。そして新しく華道教室も始めます。

▼健康寿命という言葉が流行っているそうです。元気に健康で生活ができる期間をいかに延ばすか。ウォーキングや〇〇体操などで身体を鍛え病気よ、バイバイ！そして身体だけでなくお寺に足を運んで心も健康に。心やすらぐひと時を。ご法事の他にも各行持・催事へのご参加、またお気軽に御参詣下さいますよう、お待ちしております。

### 成寿 第四十四巻

平成二十六年十二月二十日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野中央一丁目

十二番九号

電話 〇四五(八四五)一三七一

FAX 〇四五(八四六)二〇〇〇

印刷所 (株)中外日報社



三  
世  
尊





横濱善光寺